

令和 7 年度 高浜市障害者地域自立支援協議会研修報告

1 自立支援協議会主催研修

(1) 「問題解決しない事例検討会」

講 師：日本福祉大学 福祉経営学部

福祉マネジメント学科（通信教育）准教授 田中 和彦 氏

開催日：令和 7 年 7 月 2 日（水） 13：30～16：30

場 所：高浜市いきいき広場 2 階 いきいきホール

参加者：34 名

テーマ：『問題解決しない事例検討会』

問題解決しない事例検討会は、その名の通り問題解決が目的ではなく、本人に対する理解を深めていくにあたっての仮説を立て、その人を捉え直すことを目的に開催。

支援者が「問題」と捉えている事柄が、その人にとってはどんな意味や必要性があるのだろう、その人からはどんな景色が見えているだろう、といった解釈を深めた。

<感想等>

- ・支援者がそれぞれ思っていることは必ずしも同じとは限らないため、様々な人の意見を取り入れいく必要があると気づきました。
- ・支援者が問題と捉えている事柄が、その人にとっては問題ではなく、必要な事柄なのかもしれない。違う観点から見る必要性や、なぜだろうと考える過程も理解を深めることに繋がるのだと分かった。
- ・色々な解釈、自分の解釈のクセや偏りを知る機会になりました。
- ・支援者が課題と思っていたことは本当に課題なのか？なぜそのような行動が起きているのか、その方の背景や言葉にできない思いを想像し、勝手に解決しようとせず、今一度ご本人の心に寄り添った支援を意識して行っていこうと思いました。

(2) 利用者中心の支援を考える虐待防止研修会

講 師：日本福祉大学 福祉経営学部

教授 綿 祐二氏

開催日：令和 8 年 2 月 13 日（金） 15：00～17：00

場 所：高浜市いきいき広場 3 階 多目的ホール

※ハイブリット形式での研修とし、一部 Zoom での参加

参加者：56 名（Zoom 参加者を含む）

テーマ：障がい者虐待防止 ～支援・ケアの合理的説明、職場環境整理を考える～

研修のポイント

- ・虐待・不適切支援・身体拘束の基本的理解
- ・日々のケアや支援は何に影響するか／イライラしたときの対処法
- ・日々のケアの振り返り
- ・虐待・身体拘束の考え方・現場における不適切支援
- ・支援における「合理的配慮」合理的な説明ができること
- ・虐待事案が起きたときの組織の対応

<感想等>

- ・虐待防止に向けては、日常の支援の取り組みの中でおかしいと感じていることをスタッフ間で問題共有して、その改善に向けて具体的な取り組みに繋げていくことが重要だと学びました。
- ・事業所内で話し合いができることの大切さを改めて考えることができました。判断は世の中の人、

支援の是非は社会の常識で考えるという視点は、自分には弱い部分だと感じました。

- ・職員の日頃感じる違和感やストレスに丁寧に向き合って対応していく必要を感じました。事業所などは日々アップデートすることが大切という言葉が印象に残りました。

2 障がい児通所支援部会主催研修

S S T（ソーシャルスキルトレーニング）研修

講 師：社会福祉法人くるみ会 公認心理士・臨床心理士 梅村 佳樹氏

（愛知県障害児等療育支援事業担当者）

開催日：令和 7 年 11 月 6 日（木） 1 0 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0

場 所：高浜市いきいき広場 会議室 B

参加者：31 名

テーマ：S S T の基本的な考え方 ～療育の場での活用について～

SST は、ソーシャルスキルトレーニングは、認知行動療法の 1 つで、様々なプログラムを通して対人関係など社会生活に必要なスキルを効果的に学習できるように構造化されたトレーニング方法。

その目的は、①社会で必要な考え方や行動を学ぶ、社会生活・集団生活での対人関係や社会活動を円滑におこなうためのスキルを身につけること。②学んだ知識や行動を、日常の学校や家庭、放デイ等の社会生活で実践できるようにすることで、その基本を具体的に学びました。

<感想>

- ・やり方はひとつではなくてその子供に合わせてやっていくことが大切。
- ・そのやり方はただ何となくやるのではなく、きちんとした目的を持って行えるようになりたいです。
- ・支援者もスキルの向上が大切なのだと改めて考えさせられました。
- ・日常がソーシャルスキルを学ぶ機会だと分かりました。
- ・日常生活に近い場面での S S T 設定しスキル獲得・日常生活で使えるようになると良いと思いました。